

報第12号

令和7年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について

令和7年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について、神奈川県教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第2項の規定により事務を臨時に代理し、次のとおり被表彰者を決定しましたので、同規則第2条第3項及び教育委員会の指示事項の1の(3)の規定に基づき報告します。

令和7年10月21日提出

神奈川県教育委員会

教育長 花 田 忠 雄

令和7年度神奈川県優秀授業実践教員表彰被表彰者一覧

第1部門 18名（小学校6名、中学校1名、高等学校11名）

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	逗子市立小坪小学校	ミツイ ユウキ 三井 裕紀	教諭	総合的な 学習の 時間	総合的な学習の時間の授業において、「海」に関わる地元の漁業関係者と連携し、児童が地域の課題を自分事として捉えられるよう、児童自身が主体となって取り組む活動を中心とした授業実践を行っている。
2	厚木市立鳶尾小学校	ナリタ ジュンヤ 成田 潤也	総括教諭	特別支援 学級	特別支援学級の国語の授業において、教育版の画像生成ツールを活用して画像を生成し、その画像の特徴を言語化し、文章に書き表して互いに読み合う活動を通して、児童の想像力・表現力・主体性を育む授業実践を行っている。
3	海老名市立海老名小学校	タンナイ サヤカ 丹内 清香	教諭	全教科	外国語の授業において、児童が外国語を使ってコミュニケーションを図りたくなるような必然性のある場面設定をして言語活動を行うなど、コミュニケーションの基礎となる資質・能力を育成する授業実践を行っている。
4	小田原市立千代小学校	ババ サトコ 馬場 里子	教諭	全教科	生活の授業において、児童一人ひとりの様子を的確に把握するとともに、児童の発言を拾い、全体で考えたり、考えをつなげたりする場面を設けるなど、児童が主体的に学習に取り組めるような授業実践を行っている。
5	大井町立大井小学校	ハギワラ トモミ 萩原 智美	教諭	特別支援 学級	特別支援学級の国語の授業において、書く、聞く、話すといった活動を単元の中で効果的に配置し、児童の思考に沿って授業を進めることで、児童が意欲を維持しながら学習できるような授業実践を行っている。
6	横須賀市立山崎小学校	コウサカ ユウキ 高坂 祐樹	総括教諭	全教科	国語の授業において、学習指導要領への深い理解の下、児童の実態に合わせた指導計画を作成し、既習の内容と児童の気付きを明確に区別しながら、児童の言語に対する感性を高める授業実践を行っている。
7	秦野市立鶴巻中学校	ニブユウギ セイジ 二挺木 誠司	総括教諭	数学	数学の授業において、既習の知識・技能を活用して、日常にある課題を解決する活動を行ったり、実際に紙を折ってみるなどの操作活動を取り入れることで、生徒が自ら課題について考えることができるような授業実践を行っている。
8	県立神奈川工業高等学校	オオシマ ユキ 大島 有希	総括教諭	工業	工業の授業において、全員が集中し、それぞれのペースで取り組めるよう課題設定を工夫し、苦手な生徒にも寄り添いながら指導するなど、生徒一人ひとりの学びのサポートを大切に授業実践を行っている。
9	県立神奈川工業高等学校	ハンモト キョウエ 橋本 喜代枝	教諭	工業	工業の授業において、ICTを活用し、デザインに関する知識をわかりやすく説明するとともに、実践的な課題に取り組ませることで、生徒自らが課題点を見極め、課題解決策について考える力を育成する授業実践を行っている。
10	県立神奈川総合高等学校	ヨシセ マサカズ 吉瀬 正一	総括教諭	理科	理科の授業において、科学的思考力を協働的な学びにより育む取組に重点を置き、生徒同士での学びや協力を促進することで、豊かな学び環境を築き、科学的な思考力や他者とともに考えを深める力を養う授業実践を行っている。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立横浜翠嵐高等学校	カサハラ ミホコ 笠原 美保子	教諭	国語	国語の授業において、学習指導要領の深い理解をもとに、言語活動を工夫し、工夫した授業プリントを使って、生徒の考えを引き出し、クラス全体の活動へ繋ぐなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を行っている。
12	県立生田高等学校	ヨコミノ マユミ 横溝 真由美	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒一人ひとりの理解度に応じてICTを活用しつつ、グループ活動を効果的に取り入れることで、多様な意見に触れながら自らの考えを再構築し、論理的に発信する力を育む授業実践を行っている。
13	県立鶴嶺高等学校	ヤマシタ ワコ 山下 和姫	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、単元や本時の目標を明確に示し、積極的に言語活動を実践し、ペアワーク等を効果的に取り入れることにより、生徒の英語による発信力の向上を目指した授業実践を行っている。
14	県立相模原高等学校	アサバ ゲン 浅羽 元	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、歴史的な知識の習得・定着を目指すだけでなく、「なぜ」や「どうして」等の問いかけを重視し、生徒が歴史的事象を探究していくことができるような授業実践を行っている。
15	県立上溝南高等学校	マサヤマ コウイチ 増山 光一	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、問いを工夫し、クラス全員に自身で考え、発言する機会を与えるとともに、グループでの協働学習で互いに意見を述べ合うことで、情報収集能力、思考力や表現力を高める授業実践を行っている。
16	県立秦野曾屋高等学校	サイトウ タカヨシ 齋藤 昂良	総括教諭	理科	理科の授業において、日常生活における身近な例を取り上げるなど、興味・関心を上手く引き出し、生徒が理科を学ぶことの意義や有用性を実感し、主体的に学習に取り組む態度を養う授業実践を行っている。
17	県立厚木清南高等学校	アライ タカユキ 新井 貴之	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、最新の知見やデータを収集して教材に盛り込みつつ、生徒が興味を持てるよう提示の仕方を工夫するなど、生徒が主体的に授業に参加でき、知識を定着させることができる授業実践を行っている。
18	県立大和高等学校	タナベ ケイ 田部 慧	教諭	理科	理科の授業において、学習の流れやポイントがよくわかるよう、ICTを効果的に活用するとともに、生徒の思考が深まるよう発問を工夫することにより、生徒の科学的な見方・考え方を育成する授業実践を行っている。

第2部門 26名（小学校4名、中学校1名、高等学校17名、特別支援学校4名）

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	逗子市立逗子小学校	クマガイ ショウコ 熊谷 祥子	教諭	全教科	理科の授業において、児童の思考順序に沿った授業構成とすることで、わかりやすい内容となっているほか、教材・教具の工夫により、理科教育で大切な事象に対する疑問や知的好奇心を高める授業実践を行っている。
2	平塚市立みずほ小学校	テラモト ワカナ 寺本 稚菜	教諭	全教科	国語の授業において、児童が取り組みやすいよう教材を工夫するとともに、児童にとって身近な教員が書いた文章を提示することで、児童が文章を書くことに前向きに取り組む、集中力を持続できるような授業実践を行っている。
3	秦野市立広畑小学校	マチダ アヤミ 町田 文美	教諭	全教科	音楽の授業において、児童の実態を的確に把握した指導計画により、楽しくかつ学びのある学習内容となっており、実技だけではなく、ICTを用いて表現の仕方を考えるなど、児童の思考力・判断力・表現力を高める授業実践を行っている。
4	南足柄市立南足柄小学校	ノ ヨンリム 盧 映林	講師	道徳	道徳の授業において、全体協議やペアワークを効果的に取り入れながら、児童の思考を深めるような発問・板書を工夫することで、自己を見つめ、人との関わりについて多面的・多角的な見方・考え方を育む授業実践を行っている。
5	秦野市立南中学校	ヒライ タイスケ 平井 泰輔	教諭	社会	社会の授業において、新聞を活用するNIE教育に継続的に取り組み、学年の発達段階に応じて授業を構成するなど、生徒が無理なく活字に親しみつつ、現代社会における課題を主体的・対話的に考えることができる授業実践を行っている。
6	県立鶴見総合高等学校	クボ モエカ 久保 萌香	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、本時での目標を明確に示すとともに、スモールステップを踏んで生徒が達成感を感じられるようにすることで、意欲的に学習に取り組む姿勢を育み、基礎学力を定着させる授業実践を行っている。
7	県立神奈川工業高等学校	ムラカミ ユウヤ 村上 雄哉	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ICTを活用して、英文のみならず映像やグラフなどからも情報を読み取り、考えることができるよう多様な学習活動を取り入れることで、生徒が継続して学習に集中できる授業実践を行っている。
8	県立二俣川高等学校	クサマ ミキ 日馬 美紀	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ICTの効果的な活用と教員による英語の発話から、生徒がゴールタスクだけでなく、日頃から知識・技能をスモールステップにて高めることができる授業実践を行っている。
9	県立磯子工業高等学校	シバ ケンジ 芝 健司	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、知識・技能の習得をさせたいうえで、唯一解のない論争的な問いを生徒に示し、議論と質疑応答によって、地理的な課題の解決に向けた授業実践を行っている。
10	県立港北高等学校	ニイカワ トモキ 新川 知輝	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、話し方や視覚情報の効果的な掲示により、生徒の興味・関心を引き付けるとともに、4技能5領域をバランスよく育てることを意識し、複数技能を統合的に指導する授業実践を行っている。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立横浜修悠館高等学校	マスオ 増尾 サキ 佐紀	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ICTを活用し、生徒の実態に合わせて、ペアでスピーキング能力を育てる活動と、教育ソフトを用いて個人でライティング能力を育てる活動を同時展開し、学習の個別最適化を実現した授業実践を行っている。
12	県立多摩高等学校	アシハラ トオル 芦原 徹	教諭	国語	国語の授業において、生徒個々の読解の深度及び解釈の違いを受容し、その違いを前提とした対話的活動を行っており、生徒が「個→集団→個」という活動の流れを通して、協働的に資質・能力を獲得できる授業実践を行っている。
13	県立向の岡工業高等学校	フナキ ケイゴ 船木 圭悟	教諭	理科	理科の授業において、個人で考える時間とコミュニケーションアプリを活用して共有する時間の両方を設ける等、1人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った授業実践を行っている。
14	県立生田高等学校	アラキ ツヨシ 荒木 剛	教諭	数学	数学の授業において、自分自身の考えをアウトプットする場面を設定するなど、主体的に学ぶ力が身に付けられるよう工夫しているほか、多くの数学的活動を通して、数学的な見方・考え方を働かせる授業実践を行っている。
15	県立小田原高等学校	スダ ヨウヘイ 須田 洋平	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒の実態や将来期待される姿をよく踏まえた指導計画を作成し、教材の工夫・充実に努め、生徒を協働的な学びに引き込みながら、活発にアウトプットさせる授業実践を行っている。
16	県立相原高等学校	タナカ レイ 田中 黎	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、生徒が主題を設定することができるように、資料の読み取りにおける視点を提示したり、こまめな机間指導により支援するなど、探究的な学びの素地をつくるための工夫をした授業実践を行っている。
17	県立上鶴間高等学校	イマエダ ケイスケ 今枝 契輔	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、個人で思考したうえで、他の生徒と協議を行うプロセスを大切にしており、歴史の変化の理解、諸資料を活用して歴史に関する情報を適切に調べ、まとめる力を育成する授業実践を行っている。
18	県立厚木北高等学校	タナベ アサヒ 田邊 旭	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、單元ごとに問いを設定し、生徒が見通しをもって学習できるよう工夫しており、ICTを効果的に活用して言語活動や学習の補完を行うことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を行っている。
19	県立厚木清南高等学校	ハセガワ マサト 長谷川 壮登	教諭	数学	数学の授業において、日本語能力に課題がある生徒に向けてプリントの説明文に英語を併記するなど、教材を工夫したり、生徒の実態に応じて既習内容を丁寧に説明するなど、個に応じた指導を充実させた授業実践を行っている。
20	県立大和高等学校	ナスノ ヤスタカ 那須野 恭昂	教諭	家庭	家庭の授業において、生徒が教え合えるような教材を工夫し、授業内での問いに対して、知識構成型ジグソー法を用いて班員と協力しながら知識を統合し、問題を解決し、生徒個々の実生活に活かすことができる授業実践を行っている。

	学校名	フリガナ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
21	県立座間高等学校	ボタン ケンイチ 牡丹 健一	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、生徒の実態に即した指導計画を作成し、地理に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う授業実践を行っている。
22	県立相模原城山高等学校	アサイ タツヒロ 浅井 雄大	教諭	情報	情報の授業において、プログラミング教育の趣旨を理解し、生徒がこれから出会うであろう様々な課題に、プログラミング教育を通して身につけたスキルを活用できるよう、課題解決力の育成を重視した授業実践を行っている。
23	県立武山支援学校	ヤマフジ アイナ 山藤 愛奈	教諭	特別支援	美術の授業において、生徒一人ひとりの個性や感性を大切にし、生徒の興味・関心や能力に合わせてアプローチするなど、個別の支援を丁寧に行い、生徒たちが美術を通じて表現する喜びや成長を感じられる授業実践を行っている。
24	県立武山支援学校	オオモリ ニウヤ 大森 勇弥	教諭	特別支援	教科等を合わせた指導（社会）において、ICTを活用して選挙の仕組みや重要性を学ぶと同時に、デジタル技術を活用した選挙運動や投票プロセスを体験し、情報リテラシーやコミュニケーション技術の向上を促す授業実践を行っている。
25	県立茅ヶ崎支援学校	タケヤマ ハルヤ 武山 晴哉	教諭	特別支援	教科等を合わせた指導（生活）において、児童の実態に応じた指導の目標と手立てを設定し、教材の工夫によって児童一人ひとりにねらった身体の動きを引き出すなど、児童が主体的に学習活動に参加できる授業実践を行っている。
26	県立相模原中央支援学校	ホシ モエカ 星 萌花	教諭	特別支援	図画工作の授業において、児童の障害特性に配慮し、環境調整を行いながら身近な素材や道具を活用し、その活用方法に創意工夫を加え、児童が主体的に素材や道具と向き合い、表現の可能性を引き出せるような授業実践を行っている。

令和7年度神奈川県優秀授業実践教員表彰 制度の概要及び審査経過

1 制度の概要

(1) 趣旨

教員の人材育成施策の一環として、学校教育における授業実践に優れ、教員の模範として推奨すべき者を表彰し、顕彰するとともに、教員全般の意欲及び資質能力の向上に資する。

(2) 導入年度

平成19年度

(3) 対象者

県立学校及び市町村立学校（横浜市立、川崎市立、相模原市立の学校を除く）の総括教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭及び常勤講師

(4) 表彰候補者の基準

優れた授業の実践が顕著な者（教科指導、特別支援教育に関する指導、保健に関する指導、食に関する指導等）

(5) 部門の内容（表彰する年度の4月1日時点）

第1部門：総括教諭又は教職経験10年以上かつ35歳以上である者

第2部門：教職経験10年未満又は35歳未満である総括教諭ではない者

2 審査経過

- ・ 4月：市町村教育委員会及び県立学校長に対し推薦を依頼
- ・ 5月：県教育委員会に推薦書を提出
- ・ 6～8月：各所管機関において、表彰候補者に対する授業観察及び予備審査を実施
 - ・ 市町村立学校：各教育事務所、横須賀市教育委員会
 - ・ 県立学校：高校教育課、保健体育課、特別支援教育課
- ・ 8月：審査会の実施
- ・ 9月：審査会（座長：教育局長）の意見具申をもとに教育長が被表彰者を決定

3 被表彰者数

表彰年度 部門 校 種	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門
小 学 校	7	3	5	3	4	4	6	4
中 学 校	2	1	3	3	4	2	1	1
高等学校・ 中等教育学校	10	11	8	17	11	13	11	17
特別支援学校	1	6	3	3	1	2	0	4
合 計	20	21	19	26	20	21	18	26

※ 令和7年度被表彰者の年齢等内訳（令和7年4月1日現在）

年齢構成	20代	30代	40代	50代	60代	合計
第1部門 平均年齢：42歳 平均教職経験年数：17年	0	8	8	1	1	18
第2部門 平均年齢：33歳 平均教職経験年数：7年	7	17	2	0	0	26
合 計	7	25	10	1	1	44

4 被表彰者の活用（令和6年度被表彰者の実績）

(1) 校内や校外の教員に対する積極的な授業の公開

被表彰者に対し、各学校の校内で決まった期間に相互に授業を見学する機会や、初任者研修の他校訪問などの機会を積極的に活用し、受賞の翌年度末までに授業公開を1回以上行うことを義務付けている。

ア 授業の公開の実績（令和7年10月以降実施予定分を含む）

(7) 校内向け又は校外向けに行う授業の公開

	校内向け公開	他校向け公開	全ての授業の公開
実施総回数	123回	29回	152回
指導案を作成する	41回	20回	61回
指導案を作成しない	82回	9回	91回
参観総人数	822人 参観	341人 参観	1,163人 参観

(4) 被表彰者一人あたりの平均実施回数及び1回あたりの平均参観人数

	小学校	中学校	高等学校・ 中等教育学校	特別支援学校	全校種合計
一人あたりの 平均実施回数	6.8回	5.0回	5.1回	1.0回	5.2回
1回あたりの 平均参観人数	13.2人	8.5人	5.1人	10.0人	7.7人

イ 主な活用の結果、感想等

- ・ 若手教員にとって、模範となる授業実践をいつでも見られるよいモデルであるとともに、授業づくりの課題を相談できる頼もしい存在となっている。
- ・ 授業見学により、他教員の授業に対する意識が刺激され、若手、ベテランを問わず授業力向上に良い影響を及ぼしている。被表彰者本人も更なる授業力向上に尽力し、積極

的に本校の授業の活性化に貢献している。

- ・ 被表彰者自身のさらなる授業改善に向けた取組に、本表彰の成果を感じている。また、その授業や仕事ぶりを見て学ぶ教職員は多く、チーム学校としての意識が具体化してきていると感じる。管理職のリーダーシップとは違う視点での、ボトムアップ的な学校運営に寄与していると感じている。
- ・ 互見授業を行う中で、被表彰者が行う授業実践を他の教員が見ることにより、他教科の担当者にとっても活用できるアイデア等が共有され、日々の授業実践に生かすことができたことは有益であった。

(2) 教員研修等における講師に係る実績

総合教育センター等が実施する研修等に、毎年、一定の被表彰者の活用を義務付けている。

ア 基本研修における講師（１名）

- ・ 内 容 模範授業
- ・ 受講者 6名（高等学校 芸術（音楽））

イ フレッシュティーチャーズキャンプ（新規採用予定者研修）における講師（３名）

- ・ 内 容 実践報告
- ・ 受講者 ※令和８年２月21日・２月28日実施予定のため、現時点で受講者数は未定

ウ かながわティーチャーズカレッジにおける講師（１名）

- ・ 内 容 模範授業、講義
- ・ 受講者 80名

5 今後の予定

- ・ 11月7日（金） 表彰式 神奈川県庁本庁舎３階 大会議場 16時15分～17時00分